

平成24年度事業報告書

(公益事業)

公1事業、写真に関する創作活動の奨励、人材の育成、教育に係わる事業

(1) 小学生を対象とした「写真学習プログラム」を全国の小学校49校で平成24年4月～平成25年3月にかけて実施した。指導者26名、参加児童数1,599名。(過去8年間の合計429校16,838名)。富士フィルム㈱の協力でを行った。

① 2011年の「写真学習プログラム」で児童が撮影した写真展を開催した。

開催名	場所	日時	参加数
JPS写真学習プログラム「小学生のワクワク・ドキドキ写真展2」(2011年度実施55校1,671名の作品から四つ切ワイドプリント626点を展示) 会期中撮影イベント「親子でチェキ」を4日間93組の参加者で行った。 協力：富士フィルム㈱、富士フィルムイメージングシステムズ㈱ 「関西小学生のワクワク・ドキドキ写真展」(四つ切ワイドプリント355点を展示)	フジフィルム スクエア/富士フィルムフォトサロン	4月27日(金) ～5月3日(木)	7,420名
	京都市美術館別館 JPS展会場内1F	7月31日(火) ～8月5日(日)	2,233名

②「エコトークフォトコンテスト」を都近郊の7カ所の小学校と沖縄県久米島の保養所で実施した。参加児童201名の作品を選考し、8月に長野県のNPO法人が実施している山の家で親子の体験実習を行った。クラレトレーディング㈱の協賛。

(2) 第6回高校写真部顧問を対象とした「デジタル写真講座」を、全国高等学校文化連盟写真専門部との共催で6月9日(土)愛媛県松山市、7月21日(土)長野県松本市の2カ所で実施した。㈱ニコンイメージングジャパンとエプソン販売㈱の協力でを行った。

日時	場所	講師	受講者
6月9日(土)	愛媛県立松山工業高校	山口勝廣、足立寛、武市基靖、早田均	教師22名
7月21日(土)	長野県松本市 あがたの森文化会館	熊切圭介、足立寛、加藤雅昭、辻中隆志、古岩井一正	教師11名

(3) 技術研究会を行った。

開催名	場所	日時	参加数
第1回(関西1回)「ニコンD4・D800新製品とデジタル技術研究会」協力：㈱ニコンイメージングジャパン	ニコンプラザ大阪セミナールーム	5月1日(火)	34名
第2回技術研究会(中部1回)「今更聞けないフォトショップの基礎知識」講師：永嶋サトシ(JPS会員)	愛知芸術文化センター12階アートスペースE・F	5月26日(土)	41名
第3回「名取洋之助写真賞ワークショップ」 講師：鈴木一誌	日比谷図書文化館	11月30日(金)	41名
第4回(関西2回)「カラーチャートを使った撮影データの色調節法」講師：富川丈司x-rite(エクスライト㈱)佐藤壽一(JPS会員)	大阪本町・愛日会館2F	3月22日(金)	36名
2012JPS展併設イベント企画セミナー「みんなで作ろうフォトブック」協力：㈱アスカネット	東京都写真美術館アトリエ創作室	5月27日(日)	18名

(4) 専修大学のジャーナリズム講座で「報道写真論」の2012年第2回講師に長倉洋海、英伸三会員を派遣した。

公2事業、写真の表現に関する展示、講演、保存に係わる事業

(1)「第37回2012JPS展」を東京、名古屋、京都で開催した。後援：文化庁

公募作品受付：12月20日(火)～1月20日(金)

作品審査：2月4日(土)

審査員：田沼武能(審査員長)、大山謙一郎、熊切圭介、米美知子、勝又ひろし(『アサヒカメラ』編集長)

応募総数：2,387名7,507枚(一般部門：2,264名7,204枚、20歳以下部門：123名303枚)

入賞・入選者総数：307名499枚[一般部門：268名439枚(文部科学大臣賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、

奨励賞5名、優秀賞29名、入選227名)、20歳以下部門：39名60枚(最優秀賞1名、優秀賞9名、入選29名)

会員テーマ：「プロフェッショナルの世界」パート3会員出展数：60名(5枚組写真)300枚

イベントコーナー：「ヤングアイ」参加校 17校

総展示数：816枚(公募：307名499枚、会員：60名300枚、ヤングアイ：17校17枚)、後援：文化庁ほか

総入場者数：9,411名。2012JPS展副賞提供社：51社。

入場料(各展共通)：一般700円(団体割引560円)、学生400円(団体割引320円)、高校生以下無料、65歳以上400円(東京、広島展)65歳以上無料(名古屋、関西展)※団体は20名以上。

開催名	会場	日時	参加数
◆東京展 (後援：文化庁、東京都、共催：東京都写真美術館) 表彰式 講演会「生涯現役－女性報道写真家第一号・笹本恒子97歳」講師：笹本恒子・板見浩史(インビジュアル) 受賞パーティー イベント：ワークショップ「ワンランク上のインクジェットプリントを作る－新用紙・フレスコカラーの実力」講師：鹿野宏 協力：エプソン販売(株)、(株)トクヤマ レクチャー「気軽に何でも写真相談室・カメラ女子も大歓迎!」講師：浅岡恵、石井真弓、山口規子 撮影会「身近な人を撮る－話題のミラーレス一眼の実力を体験」講師：熊切圭介、管洋志、藤井智弘 協力：パナソニック(株)、(株)コメット フロアレクチャー：計6日	東京都写真美術館 B1展示室	5月19日(土) ～6月3日(日)	5,339名
	東京都写真美術館ホール	5月19日(土)1時	190名
	〃	〃 3時	180名
	エスパシオ	〃 5時	196名
	東京都写真美術館アトリエ	5月20日(日)	15名
	〃	5月25日(金)	15名
	恵比寿ガーデンプレイスアトリエ	6月2日(土)	18名
	B1展示室		計171名
◆名古屋展(後援：文化庁、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会) 表彰式・講評：熊切圭介 講演会「光と影－パリの宝石箱より」講師：榎並悦子	愛知県美術館展示ギャラリーH・I	7月3日(火) ～8日(日)	1,839名
	愛知県芸術文化センター12階A室	7月7日(土)	214名
◆関西展(後援：文化庁、京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会) 表彰式・講評：田沼武能 講演会：「レンズが教えてくれたこと」講師：大石芳野 イベント：小学生向けワークショップ「撮るって楽しい!～夏休みカメラ体験」子どものためのデジタル一眼レフカメラ講習 協力：(株)コンイメージングジャパン、エプソン販売(株)、サンディスク(株)	京都市美術館別館	7月31日(火) ～8月5日(日)	2,233名
	京都市国際交流会館イベントホール	8月3日(金) 〃	135名 187名
	みやこめっせB1F芸室	7月31日(火)	11組

(2)「2012年新入会員展－私の仕事」を開催した。

会期	場所	入場数	備考
7月12日(木)～18日(水)	アイデムフォトギャラリー「シリウス」	583名	展示29名87枚
7月12日(木) 18:00～19:30	〃 オープニングパーティー		参加者121名
7月27日(金)～8月2日(木)	富士フィルムフォトサロン大阪	2,556名	

- (3) 第6回フォトフォーラム・第一部「写真で探るネイチャーワールド」第二部「魅せる鉄道写真」を11月10日(土)、有楽町・朝日ホールで開催した。(共催・朝日新聞出版、後援・文化庁)。
 10:30～協賛9社による最新機材技術展
 11:00～第一部講演・パネルディスカッション。パネリスト：海野和男、鈴木一雄、吉野信、田沼武能、司会：勝又ひろし(『アサヒカメラ』編集長)。
 16:00～第二部講演：講師：中井精也、山崎友也。
 協賛：エプソン販売㈱、オリンパスイメージング㈱、キヤノンマーケティングジャパン㈱、㈱ケンコー・トキナー、㈱シグマ、㈱タムロン、㈱ニコンイメージングジャパン、富士フイルムイメージングシステムズ㈱、ペンタックスリコーイメージング㈱。参加者第一部479名、第二部361名。

(4) 文化庁委嘱事業「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」

- ① 6月12日、文化庁で「独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館の一部使用に関する覚書」を交わした。場所は相模原市中央区高根の東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館の、映画フィルム保存棟の地下1階の500㎡(4室)。室温10℃、40%。今年度はそのうちの1室103号室(125㎡)に、この5年間に遺族の元から収集したフィルムの一部9,641本(名取洋之助、大東元、田中徳太郎など11名)を10月4日、保存棟に収蔵した。
 ② 写真保存センターが平成19年度から調査研究を始めて5年間、物故写真家68名、約209,200本のフィルムを収集し、第1回の保存の収蔵にはフィルムの劣化の有無を調べ、使用包材をすべて中性紙のものに交換し長期保存に備えた。
 ③ 日本写真保存センターセミナーを開催した。

開催名	会場	日時	参加数
第1回「なぜ写真フィルムの保存を急ぐ必要があるのか？」 「フィルム保存の必要性」 講師：金子隆一(東京都写真美術館専門調査員) 「調査活動報告と現況」講師：松本徳彦(専務理事) 「フィルムの劣化はなぜ起こる。その対策は…」 講師：佐野千絵(東京文化財研究所保存修復科学センター室長)	JCIIビル6階 会議室	1月25日(金)	117名
page2013オープン・イベント・JPSセミナー・第2回「写真データベースの閲覧と検索」 「東京国立博物館における写真画像の検索」 講師：田良島哲(東京国立博物館学芸研究部調査研究課長) 「朝日新聞社の写真データベースについて」 講師：渡辺幹夫(朝日新聞社写真部長) 「日本写真保存センターのSAI-CHIによる画像検索」 講師：奥平正幸(凸版印刷関西TIC本部課長) 講師：中川裕美(日本写真保存センター調査主任)	池袋サンシャインシティ文化会館7階会議室	2月6日(水)	114名

- (5) 創立60周年写真展「おんなー立ち止まらない女性たちー」を7月20日(金)～8月19日(日)、韓国・東江写真博物館で開催した。総展示数：145名211枚。韓国7月20日に第11回東江国際写真祭の主要な展覧会の一つとして5カ所で開催された。観客数10,000人。

- (6) 東日本大震災復興支援事業・写真展「生きる」をドイツ・ケルン市のフォトキナ会場で、「Post-TSUNAMI」展として9月18日～23日まで開催した。フォトキナは2年に一度開催される世界最大のフォトビジネスショーで、今回は観客数18万5千人となった。本展は、約400㎡、天井高6メートルのメインブース第5会場に、73名113枚の大型写真を展示。初日の18日に、展示会場内の特設ステージでプレスミーティング(記者発表)が約80人で行われ、来賓の小井沼在デュッセルドルフ日本国総領事、マークス・オスターケルンメッセ副社長から祝辞を、文化庁近藤誠一長官からは祝辞のメッセージをいただいた。協会からは田沼会長、熊切副会長、松本専務理事、管、島田常務理事が出席した。

「Post-TSUNAMI」展はフォトキナでの展示終了後、ドイツ国内を巡回するに際して、国際交流基金の協力をいただいた。10月5日(金)～11月3日(土)、ケルン市のケルン日本文化会館で開催、旧東ドイツのハレ市、ベルリン、オーストリアなどを巡回した。

公3事業、写真に関する著作権の普及、啓発に係わる事業

(1) 著作権に関する研究会、セミナーを開催した。

開催名	会場	日時	参加数
第1回「写真家の契約とは一無用なトラブルを回避するためのポイント」講師：石新智規弁護士	JCIIビル6階会議室	9月28日(金)	70名
第2回「Q&Aで学ぶ写真著作権」講師：大井法子弁護士	大阪本町愛日会館	11月9日(金)	62名
第3回「ソーシャルメディアと写真著作権—あなたの疑問に答える— SNS・TPP・FTA・アメリカ著作権法と写真著作権」講師：山田健太(専修大学教授)、石新智規弁護士	JCII会議室6会議室	2月26日(火)	101名

(2) 『新版・写真著作権』の編集をし、4月に発行した

(3) 「デジタルデータ使用後の消去方法について」の調査研究をした。

(4) 「デジタルコンテンツビジネスにおける契約」に関する研究をした。

(5) 著作権よろず相談室 毎月第3水曜日開催。相談数32件。

公4事業、写真に関する図書の編集発行、電子出版・情報に係わる事業

(1) 『日本写真家協会会報』を年3回(No. 150~152)発行した。

(2) 新刊『写真著作権』の編集をした。

(3) 電子出版、インターネット、ホームページを利用したサービス業務を行った。

公5事業、写真に関する優れた技術開発、表現活動に対する顕彰事業

(1) 第38回「日本写真家協会賞」贈呈式を、12月12日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。

第38回「日本写真家協会賞」を、キャノンマーケティングジャパン株式会社に贈呈した。贈呈式は12月12日(水)にアルカディア市ヶ谷で行った。贈呈理由は、平成20年4月からBSジャパンで放送が始まった「写真家たちの日本紀行」は194回以上の放映、94名もの写真家が登場した。日本の「いま」を切り取る「旅」から「未来に残したい情景」を放送し続け、写真愛好家のみならず多くの人たちが視聴する人気番組となっている。この番組を企画提供し、写真文化へ貢献されたことに対して。

(2) 新進写真家の発掘と育成を図るために、第8回「名取洋之助写真賞」の公募を行った。

①公募：30歳までの新進写真家を対象に、公募期間7月1日(日)~8月20日(月)、8月27日(月)、鎌田慧、大島洋、田沼武能の3氏によって選考を行い、名取賞に安田菜津紀「HIVと共に生まれる—ウガンダのエイズ孤児たち—」(カラー30枚)を、奨励賞に山本剛士「福島原発事故~『酪農家の記憶』~飯舘村長泥封鎖」(モノクロ30枚)を選び、授賞式を12月12日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。

②2012年第8回「名取洋之助写真賞受賞作品写真展」を催した。

会期	場所	入場数
1月18日(金)~24日(木)	東京・富士フィルムフォトサロン東京	8,363名
2月27日(水)~3月4日(月)	福島・福島市民ギャラリー	140名
3月22日(金)~28日(木)	大阪・富士フィルムフォトサロン大阪	3,137名

(3) 「第37回2012JPS展」入賞・入選者307名を5月19日(土)、東京都写真美術館ホールで表彰した。

入賞・入選者総数：307名 [一般部門：268名(文部科学大臣賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、奨励賞5名、優秀賞29名、入選227名)、20歳以下部門：39名(最優秀賞1名、優秀賞9名、入選29名)]

入賞者：文部科学大臣賞・川口新実「竜宮への入口」(カラー単)

金賞・和田 誠「鼓動」(カラー5枚組)

銀賞・千田俊輔「例えば」(カラー単)、銀賞・寺田功子「元氣村」(カラー4枚組)

銅賞・河田和子「夢の扉」(カラー単)、銅賞・常川真「昆虫の日常と人間の日常」(カラー4枚組)、

銅賞・後藤忠彦「ダンディ」(カラー単) 以下省略

公6事業、写真に関する国際交流事業

(1) 国際交流セミナー、研究会を開催した。

開催名	場所	日時	参加数
第1回「フォト・ジャーナリストの現場報告:フィリピンシェリル・バルディカントス氏を迎えて」 講師:シェリル・バルディカントス	日本アセアンセンター アセアンホール	5月31日(木)	41名
第2回「国際アジアの写真シーン、その魅力と展望。マーク・ピアソン氏(Zen-Foto Gallery)を迎えて」 講師:マーク・ピアソン	アカデミー文京 学習室	11月29日(木)	35名
第3回「進化するスポーツ・フォトグラフィー〜アダム・プリティ氏を迎えて〜」講師:アダム・プリティ氏(写真家/Gettyイメージズ所属)	豊島区舞台芸術交流センターあうるすぽっと3階会議室B	3月14日(木)	46名

(収益事業)

収1事業、書籍、物品の販売事業

- (1) 『2012JPS展作品集』を製作し、5月19日に発行した。
- (2) ネガカバー、ファイルなど写真整理用品の製作及び販売をした。
- (3) 海外プレスカードの発行をした。
- (4) 新刊『写真著作権』を4月29日に発行した。企画・監修:公益社団法人日本写真家協会
発行所:株式会社太田出版、B5判200頁、定価:2,200円(税別)

(その他の事業 共益事業)

他1事業、ニュース、名簿の製作発行事業をした。

- (1) 『JPSニュース』の発行。年11回(No.496~506)
- (2) 『会員名簿2012~2013』の増補版を7月に発行した。

他2事業、祝賀会の事業

- (1) 会員相互祝賀会を12月12日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。参加者321名。

他3事業、保険の事業

- (1) 「2012年JPS団体所得補償保険」に団体加入した。